

# 原発 ゼロ にむかって

2012年9月19日 No.33

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel: 03-5978-2741 fax: 03-5978-2865 mail: sien@tokyominiren.gr.jp

## アカシア会 三郷わせだ健康友の会 **平和のつどい**「核兵器も原発もない平和で安全・安心な社会をつくろう」

8月5日、アカシア会と三郷わせだ健康友の会主催の「2012年平和のつどい」が開かれ、約200名の参加がありました。

毎年、アカシア会と友の会が共催している平和活動の一環で、今回はクロスライフ、早稲田9条の会、埼玉土建三郷支部、埼玉県原爆被害者協議会などの地域の団体が協賛しました。平和のつどいでは、3・11の原発事故で福島県南相馬市から三郷市に避難している被災者の体験談、「福島現地視察（7月8日、福島県双葉郡広野町）」に参加した友の会会員と職員による報告、長崎で被爆しながら多くの被爆者の救護活動に携わった元看護師による戦争体験の講演会など、参加者は原発や核兵器のない平和で安全・安心な社会への願いを新たにしました。その他にも、バザーや模擬店、木工教室、ピアノコンサート、ウクレレ演奏やフラダンスなどがあり、最後に参加者が「原発はいらない。安心できる日本にしましょう!」「みんなが幸せになれる日本に」などのメッセージを書き込んだ100個のエコ風船を大空高く飛ばしました。



### 南相馬市から三郷市に避難している中里範忠さん（小高九条の会）のお話



中里さんは以前松戸市内で働いており、三郷市に住んでいた為、土地勘のある三郷市へ避難して来たそうです。

「私が住んでいた南相馬市の小高区は一部が海岸に面していて、津波の被害も相当ひどいものでした。私の家は海岸から10キロほどの山あいにあるのですが、放射能の「通り道」に位置しているため、放射線量がかなり高くなっています。約1カ月前、三郷の年金者組合の24人が小高区へ視察に行った時、私の自宅に近づいて行くと、「バスの車内でも線量がどんどん上がっていき、バスから降りると5～6マイクロシーベルトにもなり、驚いて15分ほどで戻ってきました」と言っていました。こういう状態のため、とにかく長くは住めないのです。

小高区では生産活動をしていた会社も引き揚げて、なくなっています。家族もあちらこちらへ避難することを余儀なくされ、ほとんどの家庭が離散しているような状態です。仮設住宅で暮らしている人たちも仕事がなく収入が途絶えていますから、東電からの補償金で生活していますが、いつまでこのような生活が続くのかと思うと、本当に夢も希望もない状況です。とにかく原発はひとたび今回のような事態になると、手がつけられません。今まで原発は「五重の壁」で仕切られていて、放射能はその中に閉じ込めておくから安全だとしきりに言ってきたわけですから、事故に対する方策に関しては研究もしてこなかった。その結果、政府や東電などは大量に放出した放射能をどうしたらいいかわからないのです。本当に原発と人間は共存できるものではないと思います。

その一方、原発をなくしたら、日本経済が立ち行かなくなるとも言われていますが、私は数十年前の生活に戻ってもいいから原発をなくしたいと思っています。みんなの協力でいろいろと知恵を集めて原発に頼らない生活を考えて実行して、そういう大きな運動を起こしていくことが大事です。それをやらないから、いつまでたっても国民がなめられると思うのです。野田首相は就任時、「福島の再生なくして日本の再生なし」と言いましたが、全くのうそで、被災者からすれば、何もやっていません」 ■山田利和（協議会だより編集事務局）氏の記事より抜粋■